ジェネプロ研究

都市近郊酪農の存立条件

大木茂（畜産経済）、村山史世（地域環境政策）、池田裕美（動物行動管理学）

研究の背景

チーズ、ヨーグルト、牛乳、バターなど、まいにちの食生活に欠かせない原料である生乳。

ニュースでも見るとおり、餌代高騰で経営が厳しく、多くの温室効果ガスを排出することで対策を求められることから、相模原のような都市近郊では酪農の存立基盤が狭められています。

そこで、都市近郊酪農の存立条件を、東京・神奈川で酪農を営む経営に見学やインタビューすることを通じて、どうしたら発展できるのか経済・環境などをキーワードに考えたいと思います。

多様な酪農1：山地（やまち）酪農、乳製品卸販売

アプローチ

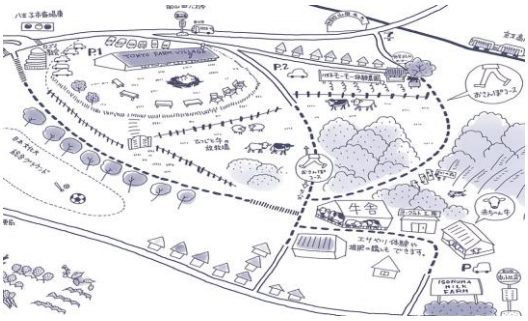
まず、東京都・神奈川県内の酪農家をピックアップし、それぞれの生乳の生産と販売、経営に関する情報を集めます（訪問orインタビューを月に１回程度行いたいと思います）
そのインタビューを１０人を目標に行った上で、都市近郊酪農の現状と課題を経営経済・環境・アニマルウェルフェア・６次産業化・生産と消費の関係という５つのキーワードに従って、発展のための新しいヒントを導き出したいと思います。

キーワードに基づくインタビュー ＋ 根拠ある科学的データ ＝ 乳生産・産地発展の新しいヒント

期待される結果

1　日本の酪農について、文献と現場を通じて学ぶことができる
2　経営経済・環境・アニマルウェルフェア・６次産業化を理解できる
3　食料・農業・農村と、それに関する仕事について理解が深まる
4　生産と消費の関係について実態に基づいた理解ができる

多様な酪農2：放牧、農家レストラン



多様な酪農3：HACCP認証、ショップ販売

募集方法

面談を行い主体的探求意欲のある学生さんに参加して欲しいと思います